

# 子どもの居場所作りの専門家が語る “安心して失敗できる”ことの大切さ

フリースペースたまりば理事長 西野博之さん

NPO法人「フリースペースたまりば」理事長で、子どもの遊び場「川崎市子ども夢パーク」（高津区下作延5の30の1）所長の西野博之さん。30近く、不登校児童・生徒や高校中退した若者の居場所作りに携わっています。長年、さまざまな背景を持つ子どもたちにかかわってきた西野さんの視点から、「今の子どもに必要なこと」と語ってもらいました。

■子どもの「遊んでみた危険か」などの理由で「い」と思う気持ちが大切夢パークのプレーパークでは、子どもたちが自然の素材や道具などを使って自由に遊んでいます。今は見かけなくなつた「空き地遊び」のようですが、子どもの遊びどもたちの「この遊びをしてみたい」気持ちから、行動したり、想像力を使つて遊ぶものです。その中から、自分たちでルールを決めたり、危険を予知・判断したり、失敗したりしながら生きる力が身に着いていきます。でも、「ここに初めて来た子の中には、「もし、ここに初めていきますか?」と一例えれば、親が「良かつ一つ確認する子も。普段、親が子どもに「服を汚すかどうか」「安全か

KかNGの指示を出して、遊びを選択しているのでしょう。昔と違い、現代は行動の主導権を親が握っているんですね。これまで行動の主導権を親が握っていることが多い」という気持ちを大切に、子どものうちは「やりたい」という気持ちを大切に、実際に遊んでみたとき、失敗が怖くなつたり、自分が何をしたい」という気持ちを大切にして、その子たちが成長していくと、心になっていきます。それがやりたいことに無関係な子になってしまい、心にならなくなってしまうのです。

■子どもが「安心して失敗できる」包容力をつくり、成長期の中で「何をしてみたいか、どういった風に生きたいか」を自然に身に着けられる環境が大事です。そして「嫌な事は嫌」と言える

■親が子どもの主導権を握ることの弊害

「面白くない」の感覚を子どもたちに体得してみたところ、「この遊びをしてみたい」とが大事です。

■親が子どもの主導権を握ることの弊害

「面白くない」の感覚を子どもたちに体得してみたところ、「この遊びをしてみたい」とが大事です。



西野博之さん。2003年才オープンした「川崎市子ども夢パーク」内に、不登校児童・生徒の居場所「フリースペースえん」を開設

044(811)2001 川崎市子ども夢パーク



夢パーク内プレーパーク

「子どもが『安心して失敗できる』包容力をつくり、成長期の中で「何をしてみたいか、どういった風に生きたいか」を自然に身に着けられる環境が大事です。そして「嫌な事は嫌」と言える

「子どもが『安心して失敗できる』包容力をつくり、成長期の中で「何をしてみたいか、どういった風に生きたいか』を自然に身に着けられる環境が大事です。そして「嫌な事は嫌」と言える

「子どもが『安心して失敗できる』包容力をつくり、成長期の中で「何をしてみたいか、どういった風に生きたいか』を自然に身に着けられる環境が大事です。そして「嫌な事は嫌」と言える